

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	法人・ 事業所 の特徴	平成23年3月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気の中で、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。独居や老々世帯のご利用者も多く、緊急時や災害時に遠方のご家族も安心してご利用頂けるように定期的に近況報告や連絡をとるよう努めている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	五井 奈央		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	1人	1人	1人	1人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価を行う時期は次年度7月末までに行う。 今後も管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、職員間で日頃より意識していく。 年度末の管理者と職員との面談のなかで、行きたい研修についても聞き取りしていく。	令和元年7月に自己評価実施。 パート職員も自己評価を実施し話し合いにも参加した。	「本人のしたい」の思いを反映して、令和元年10月から個別で外出や外食、やりたいことの実現のために各職員が計画し実施している。	次期の自己評価の実施時期は本年度同様、7月末までに行なう。 今後も管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的にミーティングや定例会議などを活用して、職員間で日頃より意識していく。 年度末の管理者と職員との面談の中で行きたい研修についても話し合っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後も施設することの意味（身体拘束になる）を定例会議や身体拘束の内部研修等で話し合っていく。	法人の事業所が合同に集まる身体拘束委員会にも参加している。 夜間（20：00～7：00）以外は開錠されている。	職員はご利用者と一緒に事業所内を季節の壁画などを作成して居心地の良い場所づくりを行っている。	玄関ホールには、長岡市からの介護情報やオレンジカフェ、市民向けの研修などを整理整頓して来所者が気軽に手に取ってもらえるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も地域行事に参加して行くことで「あおぞら館」を知ってもらい、地域の方々に相談事や災害時等に協力できる心構えを、職員全体で話し合っていく。	お祭りやクリーン作戦など回覧板などから参加できる行事には参加した。運営推進会議に区長や民生委員より参加して頂き、地域の心配事や災害についても話し合った。	令和元年9月には恒例となってきたこしじ保育園の年長児との地域交流会も継続して保育園と連携を取りながら実施できた。	公民館にあおぞら館を知ってもらう機会として、2ヶ月に1回発行している「あおぞら新聞」を掲示してもらう。（ファイルを置くなど）

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>ご利用者やご家族に請求書を郵送する際、オレンジカフェのチラシや長岡市発行のオレンジカフェ通信などを同封したり、回覧板等を活用して地域の方にも参加できるように定期的に区事務所などにお願ひする。</p>	<p>認知症の診断があるご利用者、ご家族には請求書に同封してオレンジカフェの参加の促しを行なった。</p>	<p>越路地区にある障害者施設（中越福祉会）の合同地域生活推進協力会議にも参加させて頂き、越路地区の区長や民生委員などの交流もあった。</p>	<p>継続して認知症の心配がある方やそのご家族にオレンジカフェのチラシの配布等を行って、事業所を活用してもらえり取組みを行なっていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>年度末の運営推進会議（H31年3月）では、構成員の方々から今後の地域活動や災害時のあおぞら館に対しての要望や相談などを話し合う場として時間を設ける。</p>	<p>計画の時期はずれたが、「越路地域の認知症を支える家族同士が話せる場がないのではないか」との意見があがった。その為のオレンジカフェであることも会議で話をした。</p>	<p>事業所をご利用者は独居の方が多く、同居の家族も日中仕事にでているので、会議の参加が難しい。</p>	<p>年度末の運営推進会議を活用して、構成員の方々から今後の地域活動や災害時の事業所としての役割や要望など話し合っていく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>風水害時、事業所は立地条件的に被害が少ないと思われるため、事前にご利用者・ご家族と連絡を取り合っ、宿泊や訪問の回数を増やしていくが、初めの契約時に危険が見込まれる地域にお住まいのご利用者・ご家族（特に独居）には「避難準備情報が発令された時の対応」を話し合っていく。ご本人が望まれない宿泊も考えられるため、事前に話し合い記録に残していく。</p>	<p>サービス担当者会議を活用して、老々世帯や独居の方の事前避難の方向性について話し合った。</p>	<p>越路「浦地区」として区長をはじめ「浦上・中・下地区の常会長」と話し合っ災害訓練の話が出ているが実現には至っていない。職員は携帯電話等の災害アラームで知ることができるが、高齢者は避難指示や災害レベルが出ていることをわかっていないこともある。</p>	<p>災害時に施設へ事前避難してきたご利用者（独居や老々世帯）の区長や民生委員に情報提供できるように、サービス担当者会議を活用して話し合っ、ご家族にも協力していただき連携を図る。</p>